

22:1 ヨシヤは八歳で王となり、エルサレムで三十一年間、王であった。彼の母の名はエディダといい、ボツカテ出身のアダヤの娘であった。

22:2 彼は【主】の目にかなうことを行い、父祖ダビデのすべての道に歩み、右にも左にもそれなかった。

22:3 ヨシヤ王の第十八年に、王は、メシュラムの子アツアルヤの子である書記シャファンを【主】の宮に遣わして言った。

22:4 「大祭司ヒルキヤのもとに上って行き、【主】の宮に納められていた金、すなわち、入り口を守る者たちが民から集めたものを彼に計算させよ。

22:5 彼らが【主】の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡すようにせよ。そして、監督者たちは、神殿の破損の修理をするために、【主】の宮で工事をしている者たちにそれを渡すようにせよ。

22:6 大工、建築する者、石工に渡し、神殿の修理のための木材や切り石を買わせよ。

22:7 ただし、彼らの手に渡した金の精算がなされる必要はない。彼らは忠実に働いているからである。」

22:8 そのとき、大祭司ヒルキヤは書記シャファンに、「【主】の宮で律法の書を見つけました」と言った。そしてヒルキヤがその書物をシャファンに渡したので、彼はそれを読んだ。

22:9 書記シャファンは王のもとに行って、王に報告した。「しもべたちは、神殿にあった金を取り出して、これを【主】の宮で工事している監督者たちの手に渡しました。」



22:10 さらに書記シャファンは王に告げた。「祭司ヒルキヤが私に一つの書物を渡してくれました。」シャファンは王の前でそれを読み上げた。

22:11 王は律法の書のことばを聞いたとき、自分の衣を引き裂いた。

ヨシヤは宮で発見された律法の書により、国の宗教改革を実現しました。それらは先ず、宮の修復工事から始まったことは意味があります。

宮とは神様と出会う場所です。人は常に良い日常生活と人生を送るよう努めるものですが、それらは何よりも神様との関係の修復から始まるのです。より良い生き方を願うなら先ず、神様との関係修復から始めましょう。

「王は律法の書のことばを聞いたとき、自分の衣を裂いた。」とあります。これは、危機感とショックの表れです。ユダヤの国のこれまでと現状がいかにかに神様のみこころから反しているかを、あらためて認識し、そのような反応をしたのです。

主のみこころを聞き、自分が従っていないことを示されたとき、私たちはどうでしょうか。何を聞いても無反応な人もいますが、私たちは真剣に受け止めたいと切に思います。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

